

# P・I・A シート

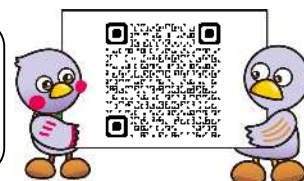
～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～  
小学校 国語科 編 ① 概要

校種・学年	小学校・3学年	教科等	国語科
単元名 教材名	登場人物について自分の考えをまとめて、伝え合おう 「モチモチの木」		
単元の目標	<p>(1)様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。 〈知識及び技能〉(1)オ</p> <p>(2)登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)エ</p> <p>(3)文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)カ</p> <p>(4)言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にしていや考えを伝え合おうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉</p>		
単元で取り上げる 言語活動	登場人物について考えたことをまとめ、伝え合う。(関連：言語活動例イ)		
本時のねらい	<p>○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。 〈知識及び技能〉(1)オ</p> <p>○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)エ</p>		
本時の 評価規準	<p>・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。 【知識・技能】</p> <p>・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 【思考・判断・表現】</p>		

## 事例の概要(見どころ)

- ・「登場人物について考えたことをまとめ、伝え合う。」という、言語活動を単元全体に位置付けて、国語科で重要となる「言語活動を通して指導事項を指導する」ことを意識した単元の構想となっています。このことにより、「登場人物の気持ちの変化や性格等を考えながら読む力」が大切であるという必要感が児童に生まれ、育成を図る資質・能力（指導事項）が明確になります。そして、課題の解決に向けて、学びを調整しながら見通しをもって学習に取り組むことができる、単元をベースとした授業づくりが行われています。
- ・育成を図る資質・能力を明確にすることと両輪で、目の前の児童の学習状況、既習の指導事項の定着状況をしっかりと把握し、資質・能力の育成に向けて、「どのように学ぶのか」についても、教師の意図が感じられる、工夫された授業が展開されています。

発行：令和8年3月  
埼玉県教育局南部教育事務所  
<https://www.pref.saitama.lg.jp/g2201/gakkou/pia.html>



# P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～  
 小学校 国語科 編 ② 指導展開

- 目標
- ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。 〈知識及び技能〉(1)オ
  - ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)エ

○展開 (6/7)

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
<p><b>▶授業改善の視点①：単元構想・育成する資質・能力（指導事項）の明確化▶</b></p> <p>本単元の授業にあたっては、第1時に児童とともに単元を見通して、学習のゴールを共有している。教師は、学習指導要領で育成を目指す資質・能力やこれまでの児童の学習状況、指導事項の定着状況を踏まえ、単元を通じて「どのような力を身に付けてほしいか」を明確にして、単元を構想していくことが重要である。本授業では、学習活動で育成したい資質・能力（指導事項）を児童に明確に伝えとともに、見通しをもって学習を進められるように資質・能力の育成につながる読みのポイントを掲示することで、単元全体の学習効果を高めている。</p>		
<p>登場人物の せいかく、気持ち ・会話文から 地の文の、 人物の様子や行動 を表す表現 から読むことができる</p>		<p>「モチモチの木」(教材)で何を学び、何ができるようにすればよいのか、指導事項に関わる学習のポイントを児童がいつでも確認できるように掲示したことで、児童が学習の見通しをもつことができ、主体的な学びを促すことにつながっています。</p>
<p>1 前時の学習を振り返り、 本時の課題を確認する。</p>	<p>医者様をよびに行く豆太の気持ちを読もう。</p>	<p>○前時の振り返りや「イシャサマヲヨバナクッチャ！」の言葉から豆太の気持ちを想起させて本時の課題へつなげ、学習への意欲を喚起する。</p>
	<p><b>▶授業改善の視点②：必要感を生む課題の設定▶</b></p> <p>課題の設定においては、学習のゴールに向けて、児童自らが本時（本単元）で何を学ぶかを明確に意識できるようにしていくことが重要である。本授業では、前時までの学習を丁寧に振り返り、児童の考えや思いを基にした、自分事として考えられる課題を児童とともに設定することで、主体的な学びにつなげている。</p>	
	<p>1時間ごとの学習内容を整理した教室掲示を利用し、児童がこれまでの学習の流れや既習事項をいつでも振り返ることができるような学習環境をつくっています。学びを蓄積した掲示物や学習資料は、本単元の指導事項である「場面の移り変わり結び付けて」登場人物の気持ちの変化を読む際のヒントになります。また、児童を取り巻く言語環境を常に整えておくことは、児童の言語能力の育成においても重要です。</p>	
<p>2 難語句の意味の確認をする。</p>	<p>○難語句</p> <p>〈取り上げる語句〉 ・表戸・ねまき・半道・ふもと・しも</p>	<p>○難語句の意味を簡単に確認する。</p>

3 場面⑥を読み、考えたことやわかったこと、言ってあげたいことをワークシートに書き込む。(個人)

○叙述を基に想像しながら読むこと

○豆太の気持ちや行動が分かる部分に線を引かせ、書き出させる。(豆太の気持ち、自分の感想、わかったこと、言ってあげたいことなど)

〈読み取らせたい内容〉

- ・じさまを助けたい一心で無我夢中で走る豆太の気持ち
- ・ねまきのままだしで走る豆太の姿
- ・痛みと夜道の怖さに泣いていること
- ・じさまを失う怖さに泣いていること
- ・月明りに照らされている峠道の様子



個人で考える時間を十分に確保し、課題に対する自分の考えを形成できるようにしています。考えをもてることで、その後の主体的な表現にもつながります。

●評価場面1 (指導に生かす評価)

【知識・技能①】

〈評価方法〉ワークシート

- ・気持ちや性格を表す言葉を見つけ自分の読みを書き込んでいる児童をBとする。
- ・情景表現と気持ちを結び付けて考えている児童をAとする。

〈「努力を要する」状況(C)への手立て〉

- ・前時までの学習や一人読みの視点を掲示物で確認し、行動を表す叙述から気持ちを考えるよう促す。

4 音読をする。(各自→指名)

○内容の大体を意識しながら音読すること

5 話合いの項目を立てる。

○場面の中心となる内容

〈予想される項目〉

- ・走っている豆太の気持ち
- ・豆太の様子 ・峠道の様子

○話合いの項目を基に、文章に沿って全体で話し合い、読み取らせたい内容について深める。

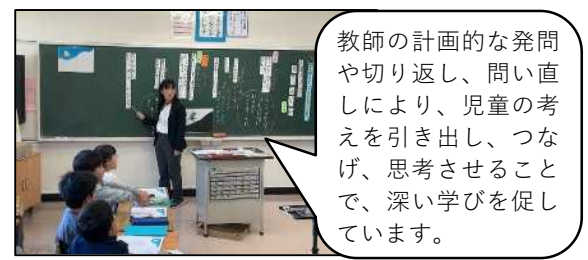
6 叙述を基に、豆太の思いや情景を想像しながら話し合う。(全体)

○気持ちや性格を表す言葉

○登場人物に対する感想・評価

○登場人物の心情の変化

○情景を表す言葉



教師の計画的な発問や切り返し、問い直しにより、児童の考えを引き出し、つなげ、思考させることで、深い学びを促しています。

〈押さえてほしい表現(・)と、期待される児童の反応の例(→) 登場人物に対する感想・評価(⇒)〉

※一部抜粋

- ・小犬みたいに体を丸めて  
→外が怖い
- ・ねまきのまんま。はだしで。半道もあるふもとの村まで…  
→よびに行くことだけを考えている。急いでいる。  
⇒遠くまで行かれるなんてすごい。がんばれ。
- ・なきなき走った  
→足が痛くて夜道が怖くて泣きながら走っている
- ・なきなき…走った  
→怖いけれどじさまのために走っている。  
⇒じさまのためにがんばれ。きっと助けられるよ。
- ・すごい星で月も出ていた  
→星がたくさん出ていてきれい。少しは明るい。

●評価場面2 (記録に残す評価)

【思考・判断・表現①】

〈評価方法〉発言・ワークシート

- ・豆太の行動と気持ちを結びつけて、自分の考えを発言したり、振り返りを書いたりしている児童をBとする。
- ・複数の叙述を結び付けて豆太の気持ちを考えている児童をAとする。

〈「努力を要する」状況(C)への手立て〉

- ・板書を基に豆太の行動を表す叙述から気持ちを考えるよう促す。

■授業改善の視点③：「言葉による見方・考え方を働かせる」ための支援■

「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。

「言葉による見方・考え方を働かせる」指導のポイントは、指導事項を確実に身に付けさせるための最適な言語活動を設定し、複数の叙述を基に行動や気持ちを考えたり、文章を一読した際に捉えた言葉の意味を文脈に即して捉え直したりするなどして、自らが理解したり表現したりする言葉に、より自覚的になる授業とすることが重要である。

本授業では、児童の発言に対して、教師が「なぜ?」「どうして?」と切り直したり、発言の根拠となる叙述に戻って捉え直しができるように「どこから?」と問い直したりするなど、児童の言葉への自覚をより高めている。

7 本時の学習をまとめる。 ○話し合いの項目から選択

○豆太の人物像

<予想されるまとめの例>

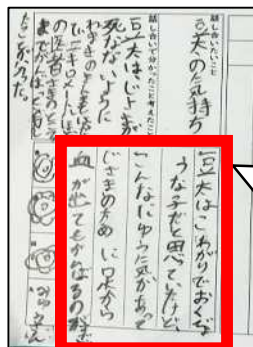
- ・豆太は「こわいけどじさまを助けるぞ」という気持ちでよびに行っている。
- ・豆太は、なきながら、一生けんめい走っている。
- ・「すごい星で月も出ていた」はいつもより明るいから、豆太が勇気を出していることを表している。

8 学びの振り返りをする。 ○自分の学びの姿勢について

○理解したこと学んだこと

<期待される児童のふり返りの例>

- ・豆太は怖さや痛さよりもじさまを助けたい気持ちが強いことがわかった。
- ・豆太なら行けるよ、じさまのためにがんばって。豆太は勇気を出してすごいね。
- ・〇〇さんの「ふっとぼしてだから勢いよく外に出た」という意見に納得した。



登場人物の性格について、前時までの学習と本時の学習での読み取りの結果を比較し、自分の考えの変容を自覚しています。



ふり返りのいい言葉あげたいこと  
〇〇について  
話し合いについて  
物語について、次のこと

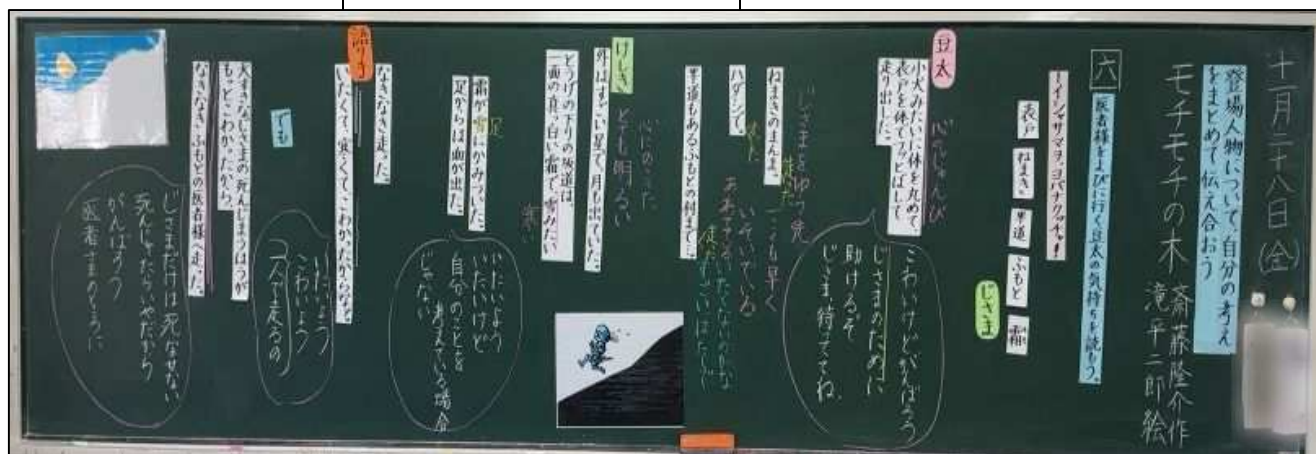
■授業改善の視点④：振り返りの充実■

振り返りは、児童が個で行うもので、身に付けさせたい資質・能力が児童の学んだこととして意識されることが重要である。また、振り返りは学びを自分事とする場面、学びの自覚化とも言える。本時の学習を捉え直して、次の学習における主体的な学びを促すものでもある。

本授業では、振り返りが表面的な学習の感想に留まることのないように、教師が意図的に視点を示しながら、十分に時間を確保して児童に振り返りをさせている。授業を通して分かったことやもっと考えたいこと、学び方のよさや次の学習に向けた課題意識等を確認・実感することができる場として適切に位置付けられている。

9 次時の見通しを持つ。

○児童の思いを基に立ち止まり  
7を読むこと



■授業改善の視点⑤：学びの足跡が見える構造的な板書■

板書は児童が思考を深めたり、広げたりする手立てとなる。そのためは、1時間の学習の流れや思考の過程が見えるような構造的な板書にしていくことが重要である。

本授業では、指導事項である登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて読み取った児童の考えを構造的に整理し、児童が振り返りの場面で自分や友達の考えを再確認するとともに、その変容を感じ取ることができるようにしている。

また、ICT端末を活用して板書を撮影した画像を蓄積し、児童が自らの学習状況に応じて、適宜閲覧できるようにしておくことで、授業全体を見直したり、既習の学習内容とのつながりを見いだしたりするときの有効な材料となる。